

教職支援室便り（11月号）

令和2年 11月13日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

令和2年度実施：教員採用試験合格者数

教員採用試験の結果が、自治体等で発表されました。本学においては、現役生8名（延べ9名）、既卒生7名（延べ7名・既卒生については把握分のみ）、計15名（延べ16名）が、下欄の自治体等に合格しました。

4月には、新規採用教員として各学校に赴任するわけですが、それまでの間、計画的に資料等の準備を進めておくとうよいと思います。また、心の準備も重要です。児童生徒、先生方、保護者や地域の方々との出会いが待っています。

【小学校】・・・6名

宮崎県3名（現役1名、既卒2名）、佐賀県2名（現役1名、既卒1名）
福岡市1名（現役1名）

【中学校英語】・・・8名

宮崎県2名（既卒2名）、鹿児島県3名（現役2名、既卒1名）
熊本県1名（現役1名）、広島県1名（現役1名）、香川県1名（現役1名）

【高等学校英語】・・・1名

宮崎県1名（既卒1名）

【私立高等学校英語】・・・1名

東京都1名（現役1名）

合格者の声

合格の結果を見たとき、まずは言葉に表せないくらい嬉しい気持ちで一杯でした。今まで自分がやってきたことが実って、よかったと思いました。家族や先生方、友達に伝えたときには、皆自分のことのように喜んでくれて、たくさんの人に支えられてここまでこれたんだと、とても実感しました。本当に心の底から思えました。小さい頃からの夢が叶ったことが実感できない部分もありますが、4月に向けて、準備を進めていきたいと思っています。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

特別講座スタート

本年度の教員採用試験の合格発表も終わり、次年度の試験に向けて、新たに「特別講座」がスタートしました。これから、約1年にわたり様々な演習を重ねていきます。

「特別講座」では、教職教養、専門教養などの試験対策とともに、近年多くの自治体で、一次試験において個人（集団）面接、集団討論、小論文などの試験が行われていることから、本年度中においても、適時それらの演習を取り入れながら進めます。学生の皆さんには、自己の目標を明確にもち、この「特別講座」を有意義なものにしてほしいと思いますが、特に大切な姿勢は「主体性」です。他律的な姿勢では成果は得られません。課題解決に向けて、自分から求めていく意欲がなければ、目標を達成できません。「特別講座」で何を学ぶのか、どのような姿勢で臨むのかなどについて、しっかりとした考えをもって取り組んでほしいと思います。この「特別講座」が、教員採用試験対策のためだけではなく、教員としての資質能力の向上に資するよう、自分自身を磨いていく貴重な場にしてほしいと切に願います。私も、誠心誠意支援をしていきます。

次に、学生の皆さんの「特別講座」への抱負を紹介します。



特別講座への抱負

教員になるためには、また、教育学部の人達と同じ場で教えられる人になるためには、それだけの知識や心構え、勉強が必要だと思います。「特別講座」で勉強をしっかりして、教育現場で充実した指導ができる先生になれるようがんばります。

先輩方の講座を終えた後の言葉を見て、勇気をもらいました。これから約1年間、努力を積み重ね、自信をもって試験に臨める力を付けたいです。忙しくなるとは思いますが、学べることの楽しさを忘れずがんばりたいです。

いよいよ「特別講座」が始まりました。私は、高校生の頃から教師になりたいという思いがあったので、その夢に向かっての第一歩になる気がして、とてもワクワクしています。大変なこともあると思いますが、先生方や仲間達と共に、乗り越えていきたいです。

来年の採用試験に向けて、自分の実力や「なぜ教員になりたいか」という気持ちに真正面から向き合い、コツコツ勉強を続けていきたいと思っています。毎日、勉強する時間をつくり、緊張感をもって過ごしていきたいと思っています。

まだ本格的に勉強していないので、不安で一杯ですが、自分が受験するという自覚を忘れず、これからの「特別講座」を通して、少しずつでも、実力と自信につなげていきたいと思えます。

この「特別講座」を通して、採用試験合格に必要な能力だけでなく、将来教員として指導する際に求められる能力等を、身に付けていけるようにしたいです。

4年生からのエール

教員採用試験に合格することができましたが、正直、一次試験も二次試験も試験中は手応えはなく、試験の難しさと厳しさを感じていました。しかし、試験が終わって、「これまでの勉強はやれるだけのことを精一杯した、これ以上はできなかった。」という清々しさもありました。今回自分が合格できた理由や方法は分かりません。ただ、これ以上できないというほど、自分なりに試験対策をしたということだけは自信を持って言えます。また、勉強法や精神面で悩むことがあれば、一人で抱えずに先生や同じ教職の仲間へすぐ相談することが一番です。私は、本当に先生と仲間に救われました。勉強は一人であることが多いかもしれませんが、一人でいても一人ではないという感覚になります。頼って頼られるという支え合いで、この一年を乗り切ってください。

「特別講座」今後の計画

日曜	時限	教室	演習内容(予定)
11月13日(金)	5	視聴覚室	教育基本法、学校教育法(施行規則)
11月27日(金)	5	視聴覚室	学校教育法(施行規則)
12月1日(火)	3	視聴覚室	学校教育法(施行規則) 地方公務員法
12月8日(火)	3	視聴覚室	地方公務員法
12月15日(火)	3	視聴覚室	地方公務員法、教育公務員特例法
12月22日(火)	3	視聴覚室	教育公務員特例法、学習指導要領
12月28日(月)	2	視聴覚室	東京アカデミー模擬試験練習問題
1月5日(火)	3・4	視聴覚室	東京アカデミー模擬試験
1月12日(火)	3	視聴覚室	教育職員免許法、教育法規練習問題
1月19日(火)	3	視聴覚室	春季特別講座打合せ 学習指導要領問題
1月下旬～2月上旬			後期定期試験期間・集中講義期間・卒論発表期間
2月中旬～3月下旬			春季特別講座「週2コマ」 教職教養演習 教育問題討論等

道徳の教科化に思う！（シリーズその42）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について掲載しています。今回は、「教材・銀のしょく台・指導資料その2」として、本教材に関する発問構成等についてまとめました。本教材については、令和元年7月号に関係資料を掲載しましたが、今回は更に詳しく述べます。

- 1 教材名「銀のしょく台」
- 2 対象学年 小学校5・6年生
- 3 内容項目B－（11）「相互理解、寛容」

4 教材内容（概略）

ジャン・バルジャンは苦しい生活のため一切れのパンを盗み、19年間刑務所に入れられる。刑期を終え出所するが、どの宿も泊めてくれない中、快く泊めてくれる司教と出会う。しかし、ジャンは銀の食器を盗むという罪を犯し逃げてしまう。

次の日、警官に捕まったジャンに直面した司教は、警官の前で銀の食器と銀のしょく台はあげたものであることを、語りかけるように話す。それを聞いたジャンの手足は、わなわなと震える。

5 発問構成例（展開前段） ○・・・期待する児童の反応 ◇・・・指導上の留意点

Q1. みなさんの心に残った（驚いた、疑問に思った、感動した）場面はどこですか。それぞれの場面での司教様は、どんな気持ちや考えだったのでしょ。

【ジャンを泊める場面】

- とてもつかれているようだ。泊めてやろう。
- こわい気もするが、かわいそうだ。

【食事をもてなす場面】

- おなかですいているだろう。食べさせてあげなければ。

【銀の食器を盗まれた場面】

- 自分が持っていたのはまちがいだ。貧しい人たちのものだ。
- これでジャンが立ち直ってくればよい。

【憲兵（警察官）に連れてこられたジャンに語りかける場面】

- あなたはきっと立ち直ります。信じていますよ。
- ◇ どの場面からでもよいので、すべての場面にふれるようにする。また、児童の反応が同じような内容であっても積極的に取り上げ、次の補助発問につなげるようにする。

補～まとめると、司教様はどんな心をもつ人なのでしょう。

- 心の広い人。
- 自分にきびしい人。
- とてもやさしい人。

◇ 展開前段の前半のポイントとなる発問であり、謙虚さ、寛容さ、優しさなど、司教の心の豊かさを児童に深く印象付け、Q2からの発問を効果的なものにする。

Q2. 19年間も刑務所に入っていたジャンを泊めた司教様の気持ちが、本当にわかりますか。泊めなくてよかったのではないですか。

- ジャンを泊めたことはよかったと思うけど、自分にはできそうにない。
- あとで銀の食器を盗まれたことを考えると、泊めなくてよかったのかもしれない。
- 泊めなくてよかったと思う。

- Q 3. 銀の食器やしよく台をあげた司教様の気持ちが、本当にわかりますか。
そこまでジャンのことを思わなくても、よかったのではないですか。
- ジャンは悪いことをしたのだから、そこまで思わなくてもよかったと思う。
 - 司教様のしたことは立派だ。でも自分にはむずかしいことだ。
 - 自分だったら、そこまで思わない。
 - ◇ これまでの学習の流れに反し、ここで「泊めなくてよかったのではないか。」「そこまでジャンのことを思わなくても、よかったのではないか。」と問うことにより、児童が自分のこととして「自分ならどうするか。」など、自分との関わりの中で考えるように導く。しかし、「自分ならどうするか。」は、あくまでも児童自身の心の中で考えることであり、教師が発問することはしないようにする。
 - ◇ 「泊めなくてよかった。」「そこまで思わない。」などの反応も、自己を語っているものであり、教師は温かく受け止めるようにしたい。
- Q 4. ジャンを震えさせたものは何だったのでしょうか。
- 司教様の思いやり、やさしさ。
 - 海のように広い心。
 - 分けへだてなく接する心。
 - ◇ Q 1 の補助発問「司教様はどんな心をもつ人なのでしょう。」と同様の反応が予想されるが、自分との関わりの中で考えた後の発問であり、ねらいとする価値を把握させる上で、有効に活用したい。
- 補～人は、そこまで優しくなれるものなのでしょうか。
- 司教様ほどのやさしさはないが、自分にもやさしいところはあると思う。
 - 今の自分にはむずかしいが、将来そんな心をもてればいいなと思う。
 - ◇ 司教を身近に感じながら、自己の生き方についての考えを深めさせるようにする。また、教師も、「一人の学習者」としての姿勢を示し展開後段に導く。